

令和３年度大阪府立泉大津高等学校学校運営協議会（第１回） 議事録

日 時：令和3年7月21日（水）10:00～11:30

場 所：大阪府立泉大津高等学校 会議室

出席者：湯峯委員、西村委員、安岡委員、岡委員、植野委員

山田校長、下澤事務長、森岡首席、徳永首席

議題

- ① 今年度の学校経営計画について
- ② 今年度の取組みについて
 - ・卒業生の進路状況について
 - ・IMPTより報告 「泉-OHTSU Method 全体検討会」
 - ・SSPTより報告 「府立学校における1人1台端末に関連する今後の予定」
 - ・令和4年度使用教科書採択について

質疑応答・意見交換

Q. 中学での観点別評価の取り組みはどのような状態か。（校長）

A. 評価のつけ方に関しては、以前よりも厳しくなっているかもしれない。つけたい力をつけるために、多くの手立てを打っていく必要があると教員は実感している。十分に力をつけていない生徒には夏休み等を使って手立てを行っていくことも考えている。（副会長）

A. 本校でも、授業の中で何を学んで、それを使ってどういう考え方ができるようになったかを見取るような「振り返りシート」などの課題が増えてきている。（首席）

Q. 保護者の立場からは観点別評価に関してどのように思われるか。（会長）

A. 子供たちに評価の方法がしっかりと伝わっているか気になる。子供たちが納得して評価を受け入れられるようにしてほしい。（委員）

A. 中学では成績の方法は、前もって生徒たちにも保護者にも様々な方法で伝えるようにしている。これからも丁寧に説明していく必要があるし、保護者懇談でも時間をかけて理解を求めている。（副会長）

A. 先生方は、観点別評価の考え方を理解していると思うが、保護者にはその情報がなかなか伝わっていないところもあるので、理解しにくいところがあると考えられる。(会長)

A. 高校入試や、大学入試も変わっていったところではあるが、その兼ね合いも非常に難しいところである。しかし、高校でも観点別評価の目的を十分に説明していくことは必要であると感じている。(首席)

Q. 生徒が実際 1 人 1 台端末を使用できるのはいつ頃になるか？(会長)

A. 700 台以上の P C を設定していくのに時間がかかることが予想される。さらにそれを実際に授業で有効活用していくには、相当な時間がかかると思われる。(首席)

A. うまくいけば、先生方にとっても業務時間短縮につながると思うので、前向きに取り組んでほしい。(委員)